

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1~フラワー)

Table with 2 columns: Field (事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日) and Value (0172901548, 有限会社 シャイニング, グループホームシャイニング, 北海道旭川市永山1条11丁目2番39号, 令和元年5月20日).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901548-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field (評価機関名, 所在地, 訪問調査日) and Value (企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階, 令和元年6月26日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●職員間の連携を中心とした「チームケア」を重視しています。
●社内研修は「シャイニング何でも調査隊」として楽しく、一つでも学ぶ機会として職員主体で行っています。
●高齢者虐待については「虐待菌仮説」を立てて、実践的かつ分かりやすい手段で学ぶなど独自の取り組みをしています。
●在宅診療医と綿密な連携体制を取っており、入居者の急な不調にも迅速に対応し、看取りも行う体制があります。
開設16年目を迎え、スタッフの経験値も向上し、入居者様のより穏やかな生活の支援に貢献できればと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市の北方面に位置する永山市街地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。立地は、国道39号線沿いの中小路にあり、近隣には郊外型大型店舗が多数あり利便性の良い地区である。法人は、平成15年に設立し、翌年に当事業所を開設し、さらに翌年に隣接する1ユニットのグループホームを開設した。隣接したGHでは、デイサービス用の空きスペースがあり、旭川市の健康体操の会場として地域へ開放している。当事業所では、老健施設と連携してPTやOTによる生活機能向上連携も行い、利用者の生活機能の維持や向上に努めている。また、「なんでも調査隊」を設置し、職員主体の学ぶ機会を養成しており、高齢者の虐待に「虐待菌仮説」を立てるなど独自の取り組みで学んでいる。行事にはボランティアによる演奏会が多く、施設長も自ら外部の楽団とコラボ演奏するなど楽しい笑顔の溢れるホームである。これからも認知症ケアの事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Scale (1-4), and Achievement Status (O for 1-2, empty for 3-4). Rows 56-62 cover various service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	課題が見つかった時、理念に基づき話し合い、理解を深める。新入社員には必ずオリエンテーションを行い理念についての説明をする。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知するように努めている。職員は、課題を発見した時に、理念に基づいて振り返り、話し合い職員間で共有して実践につなげている。	理念は、課題を発見した時に、振り返り、話し合いをして職員間で共有しているが、理念に地域密着型サービスの目指すものが含まれていないため、追加するなど再検討することを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には町内会長、民生委員にも参加して頂き、地域のつながりを持つ。	町内会の行事には、法人の代表が参加しており、事業所主催の行事には、ハーモニカや大正琴のボランティア演奏などあり、運営推進会議には、町内会長や民生委員などが参加しており、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られる地域の方に対し、管理者が認知症への対応、介護サービス利用に関する情報を提供する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	取り組みなどを報告、地域の情報交換を行っている。	運営推進会議は、家族や地域包括センター担当者、町内会長、民生委員等が参加して、隣接する同法人の事業所と合同で定期的開催し、運営状況の報告や情報交換・意見交換などを行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、各委員が参加して定期的開催して、情報交換や意見交換をしているが、議事録を各委員や家族に配布していないため、運営状況の報告を含め各自に配布することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らないことを問い合わせている。生活保護の担当者とは常時連絡を取り合い、協力関係を持つようしている。	隣接する法人内のGHと合同で運営推進会議を開催しており、旭川市の担当者や地域包括支援センター担当者が参加しているため、定期的に情報交換や意見交換をして連携している。また、保護課担当者も定期的に訪問があり情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を作り、毎月1回ユニット会議で話し合いをしている。	身体拘束廃止委員会を設置して、身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備し、毎月検討会を行っている。また、高齢者虐待について、「虐待菌仮説」を立てて実践的な分かりやすい手段で学ぶなどの独自の取組も行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部研修で学ぶ機会を持ち、それぞれの立場での責務について理解を深めるなど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方がおり、日頃のケアや後見人との連携を通じ、学ぶ機会としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	親切丁寧を念頭に解りやすい説明を心掛けています。不安や疑問点を尋ねやすい雰囲気作りを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要な連絡を行うなど意見を伺う機会を作っている。窓口やマニュアルを用意し、運営推進会議ではご家族から意見を頂いている。	ホーム便りは3ヶ月毎に発行して、家族に運営状況を報告している。利用者ごとの生活状況は、毎月手紙を書いて報告している。家族からの意見や要望は、来訪時に聞き取ることが殆どで、それらは運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットカンファレンス、職員会議での検討事項に時間を取り、職員の意見を聞く機会を設けている。	ユニット会議は月1回開催し、全体会議も月1回行っている。他に身体拘束廃止委員会は毎月行っており、なんでも調査隊を2ヶ月毎に開催している。個人面談は必要な時に随時行っており、職員からの意見や提案はその都度運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年少しずつではあるが整備を進めている。各職員がそれぞれの個性を発揮して主体的に働けるよう、チームワークを重視している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は回覧版で周知し、内容によっては個別に参加を促している。社内研修では「定期で疑問(ジャンル問わず)」を発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者との交流もある外部研修の案内は回覧板などで行っておりますが、あまり機会は作れておりません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前からご本人の生活歴等アセスメントを取ったり、事前に面談し入居後には困っている事や不安がないか要望を聞き安心して暮らせるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、ご家族と話をする機会を作り要望や意見、お互いに相談し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面会時などに出来るだけ詳しいお話をし、外部機関とも連携を図りながら必要とされているサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができる事は行ってもらう等、役割を持って生活して頂き一緒に生活している家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況を伝える手紙以外にもご本人の状況を報告し相談し合いながらご本人と一緒に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人や友人の方の面会の際はゆっくりと過ごして頂ける雰囲気作りを心掛けている。	理容や美容は訪問事業者が対応している。自宅やお墓参りなどは家族が同行して行っている。また、病院の受診帰りに、馴染みの寿司屋や蕎麦屋などに職員と一緒にいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士会話ができるようホールで座る位置を変えたり職員も間に入り会話ができるよう工夫し、入居者同士と一緒に楽しめるレクリエーションも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に相談して頂けるような関係づくりを日頃から心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日中、夜間の様子を見守り、変化があった場合ケアカンファレンスを行い意向の把握に努めている。	利用者の日常生活の中で、思いや意向を聞き取るなど把握するよう対応している。また、家族からも趣味・嗜好を聞き取り継続できることは対応している。変化があるときは、ケアカンファレンスを行い意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のアセスメントと毎日のご本人との関わりの中で以前の生活等教えて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日アセスメント、介護日誌に記録を行い現状の把握に努め職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議やケアプラン作成前に意見やアイデアを出して頂き反映している。	利用者毎の担当者が、本人や家族の意見や要望などの情報収集をして原案を作成し、ケアカンファレンスで検討して、集約し、介護計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化はアセスメントに記入し介護日誌や申し送りノートへ記録。職員と情報を共有、確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に対応。ケアプランに反映させ状況に応じて柔軟に支援行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の畑いじりや、近隣の商店、自動販売機への買物に行っています。季節や気温によって外気浴や散歩などを行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ定期受診を行い近況報告し、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の定期受診は、職員が同行して受診している。また、訪問診療も毎週あり、看護師は週1回の出勤だが、連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が一週間の様子をまとめ、週に一度の看護師へ報告、相談し、各利用者を診ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、入院先へ最新の情報提供書等をお渡ししている。備えとして、かかりつけ医にも定期受診等に情報を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について家族等と面談し迅速に方針を決定し、情報共有と支援を行っている。入居契約時には看取りの経験があり相談も受けている事を説明している。	重度化や終末期についての対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、再度、本人や家族と打ち合わせして、看取りの同意を交わし、かかりつけ医と訪問看護師と連携して、チームで支援するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に確認している。また近隣でAEDを設置している情報を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、避難経路や誘導の仕方、消火器の使い方の確認を実施。運営推進会議にて災害時の協力等についてお願いする等、夜間想定を含めて行っている。	火災の避難訓練は、消防署の指導の下、備蓄や備品を整備して、隣接する法人内のグループホームと合同で年2回定期的実施している。また、消防設備会社も参加協力があり、連携して災害対策を行っている。	火災の避難訓練は、年2回定期的に実施しているが、備蓄や備品等の再検討をして、自然災害にも対応できるような災害対策に期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーが守られるよう声掛けしながら対応する。尊厳が守られるような接し方・言葉使いを心掛けている。	人格の尊重とプライバシーについては、マナー研修を定期的に行っており、言葉使いなど研修して、人格の尊重やプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を伝えやすいよう工夫し希望を傾聴し実施したり、実施できない場合でも選択肢を設け提案したりして自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	会話を大切に一人ひとりの体調や希望、意志等に配慮しながらその人らしく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服をご自身で選んでいただけるようにしている。散髪は本人の希望を聞き好みの髪型を楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	“本日の献立”を見やすく大きく掲示している。食事の時の様子などを記録して一人ひとりが美味しく食べやすい食事ができるよう考えている。	料理は担当の調理員が行っており、利用者は食器洗いや食器拭きを手伝っている。献立は、日常で検食会をして、年4回職員と調理員が検討している。行事食は、バイキング形式の食事が好評で、出前の寿司や調理員が作る寿司など好みの食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養状態に合わせて食事や水分の形態を工夫し提供している。摂取量は記録し必要な栄養を摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを自立や介助にて行っている。一人ひとりの状態に合った歯ブラシやスポンジを使用し清潔を心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し声掛け誘導を行い出来るだけトイレで排泄していただけるよう支援している。	利用者毎の排泄のパターンを記録簿にて把握し、職員間で共有して、一人ひとりの仕草や表情を観察しながら、声掛け誘導して、トイレでの自立に向けた排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況に応じて医師と相談し下剤等を使用し対応している。必要な水分摂取量が摂れるよう工夫し一人ひとりに合わせた支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望も聞きながら入浴のタイミングを決めたり好みの湯の温度に調節し気持ち良くゆっくり入浴していただけるよう支援している。	入浴は、週2回で、月・木または火・金となっているが、本人の希望や体調に合わせて、個々に沿った入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や体調・希望などに応じて個々のペースでゆっくりと身体を休めていただいている。気持ち良く休めるよう居室の温度等にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬のセットチェック、服薬時はチェック表を使用し、把握に努めている。血圧薬の管理は医師の指示のもとで調整行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の体調に合わせて、タオルたたみや食器洗い、植物の水やりを行っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調に合わせて、買い物や外気浴に行くなど、外出支援を行っている。	日常的に敷地内や近隣の散歩や東屋での外気浴などを支援している。病院の受診ついでに買い物や近隣のお花見など個別に支援している。場所が分からない利用者が多く、外出希望者も少ないが、ホーム内での2ユニット合同の運動会や施設長とコラボした楽団の演奏会など多彩な行事で楽しい日常を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお小遣いを用意し、買い物の際使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば、取次ぎの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸締りを気にされる方や、照明を気にされる方がおり、ご希望を損なわないよう配慮して対応している。	共用空間は、2ユニットの各玄関が隣り合わせで、入ると三角形の大きなコーナーのリビングと食堂になっており、利用者がゆったりと寛いで過ごしている。天窓があり、陽ざしが良く、明るい感じで、壁には、行事の楽しい写真や季節ごとの飾りなどが施されており、季節感がある。三角形を中心に90度角に左右に居室が並んでいる珍しい形のホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が過ごしやすいよう、ホール内の長いすの配置を変えたりして工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を置いている方やテレビやラジオを置いて好きなように操作されている方などいらっしゃる。	居室には、大きな収納と電動ベットが設置されている。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを入居者様に「役割」として行っている。		